

CR-4

4 TRACK CASSETTE TAPE RECORDER



取扱説明書

REIMS

KORG

① ②

安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには



図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

-  ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。
-  次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。
 - ACアダプターが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへ修理を依頼してください。



・ 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものを乗せない。
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



・ 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。




・ 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
-  長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。



- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- 地震時は本製品に近づかない。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、データが消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

著作権について

本製品は、あなたが著作権保有者であるか、著作権の保有者から複製許諾を得ている素材を使用することを目的としています。あなたが著作権を所有していない、または著作権保有者から複製許諾を得ていない場合は、著作権法の侵害となり、損害賠償を含む補償義務を負うことがあります。あなた自身の権利について不明確なときは、法律の専門家に相談してください。

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

- 本保証書の有効期間はご購入日より1ケ年です。
- 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
 - 消耗部品(電池など)の交換。
 - お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理いたします。

- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

- お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターまでお問い合わせください。
- 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめ最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへご相談ください。運送にかかる往復の費用はお客様の負担とさせていただきます。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

- 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
- 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ CR-4

保証書

本保証書は上記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。ご購入日より満1年の間に万一故障が発生した場合は、ご購入日の販売店に製品と本保証書をご持参の上、修理を依頼してください。

お買い上げ日 年 月 日
販売店名

- * MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- * 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	5
製品の構成.....	5
取扱説明書の表記について.....	5
CR-4の主な機能.....	5
高性能マルチトラック・カセットテープデッキ.....	5
Ampworksエフェクト.....	5
アンプとスピーカーを内蔵.....	5
簡単な操作.....	6
いくつかの注意点.....	6
マルチトラック・レコーディングについて	6
Ampworksエフェクトについて	7
CR-4の各部の働き	8
CR-4の準備	9
入力信号を接続する	9
出力信号を接続する	9
電源を接続する.....	10
テープを装着する.....	10
マルチトラック・レコーディングの基本操作	11
リズムマシンを録音する	11
ベースを録音する.....	12
ギターを録音する.....	14
ボーカルを録音する.....	14
ミックスダウン.....	15
ミキシングレベル.....	15
ミックスポジション.....	15
ミックスダウン録音を行なう.....	15
高度なテクニック	17
マルチトラック同時レコーディング.....	17
入力を増やす.....	17
トラック数を増やす.....	17
ノイズリダクションを使う.....	18
Ampworksエフェクト.....	18
REMSとは?	18
コントロール・ツマミの働き.....	19
エフェクト.....	20
TAPボタン.....	20
CR-4の特殊な使い方	21
CR-4をギターコンボとして使う.....	21
CR-4をプリアンプとして使う	21
仕様	22
ブロック・ダイアグラム.....	23

製品の構成

製品の構成は以下の通りです。



- CR-4
- ACアダプター
- 取扱説明書
- 保証書

万が一、付属品が不足している場合、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問合せください。

なお、本機を運搬するときのために、梱包箱を保管しておくことをお勧めします。

本取扱説明書の表記について

本取扱説明書では以下の表記を行いません。

- 一連の操作を説明する場合、以下のような手順を示す番号を付加します。
 - 1) 電源を接続します。
 - 2) 電源スイッチを入れます。
- CR-4のパネル上のつまみ、ボタン、インジケータなどは、パネル表示名称にカギ括弧を付けて表記します。例：[PLAY]
-  が付いている説明は注意事項です。
-  が付いている説明はアドバイスです。
- 本取扱説明書の別のページを参照していただきたい場合、(→ 11ページ) のように表記します。

CR-4の主な機能

CR-4は以下の機能を備えています。

高性能マルチトラック・カセットテープデッキ

CR-4にはマルチトラック・カセットテープデッキが内蔵されていますので、カセットテープを使って、手軽にマルチトラック・レコーディングを行なうことができます。最大4トラックまでの同時録音が可能です。録音したギター、ベース、キーボード、ボーカルなどをステレオにミックスダウンして、ステレオのカセットデッキ、CDレコーダー、MDレコーダーなどに録音することができます（あるいはパソコンにMP3ファイルとして録音して、インターネットを通じて配布することもできます）。

Ampworksエフェクト

本機はAmpworksエフェクトを装備しています。このエフェクトには、さまざまなギターアンプやベースアンプのサウンドをモデリングしたアンプ・シミュレータ、およびマイクをモデリングしたマイク・シミュレータが内蔵されています。さらにAmpworksエフェクトには、プロ用に匹敵する高音質のデジタル・マルチエフェクト（リバーブ、ディレイ、コーラスなど）が内蔵されています。

なお、モデリング機能を使わずに、EQとデジタル・エフェクトだけを使うこともできます。

アンプとスピーカーを内蔵

本機にはパワーアンプとバスレフタイプのスピーカーが内蔵されています。したがって、本機のマルチトラック・レコーダーを使ってレコーディングを行なうとき、面倒な接続を一切せずに、本機のスピーカーを使ってモニターすることができます。

また、ヘッドホン端子を2つ装備していますので、一人あるいは二人で、ヘッドホンを使って録音や練習をすることができます。

簡単な操作

本機は簡単に操作できるように設計されています。カセットデッキを使う要領で、本機を使って録音をすることができます。

本取扱説明書をよく読んで、CR-4を使ってできることと、その方法を理解してください。

いくつかの注意点

本取扱説明書の冒頭に、安全に関するご注意が書かれていますので、よくお読みください。

その他の注意すべき点を以下に述べます。

- カセットヘッドクリーナーを使って、カセットデッキのヘッドを常にきれいな状態に保つようにしてください。ヘッドクリーナーはオーディオを扱っているお店などで手に入れることができます。
- カセットテープは磁気記録ですので、外部の磁界の影響を受けます。したがって、テレビ画面やコンピュータ画面あるいは大型モーターの近くで、本機を使用したりカセットテープを保管しないでください。
- 本機の上でタバコを吸ったり、飲食をしないでください。タバコの灰、食べ物、液体などはオーディオ部品にとって大敵です。
- よりよい音で録音するために、なるべく新しいカセットテープをご使用ください。また、必ずTYPE II (ハイポジション・タイプ) のテープをご使用ください。
- C-60以下のテープをお使いください。C-90やそれより長いテープはテープが薄く耐久性の点で劣るため、マルチトラック・レコーダーのように繰り返して録音を行なう用途には向きません。
なお、本機ではテープを片道で使用しますので、実際の録音時間は、テープに表示されている時間の半分の時間になります。
- 必要以上に大きな音でモニターをしないようにしてください。長時間に渡って大音量で聴くと、聴覚に支障をきたす恐れがあります。

マルチトラック・レコーディングについて

本機ではマルチトラック・レコーディングを行なうことができます。マルチトラック・レコーディングでは、音楽の各パート（ギター、ボーカル、ベース、など）毎に、順番に別々のトラックに録音することができます。同時に録音する必要はありません。録音した結果、例えばギターや他の楽器の演奏はうまくいったのにボーカルだけがうまくいかなかった、というような場合、全部のパートを録音し直す必要はありません。ボーカルだけを録音し直せばよいのです。マルチトラック・レコーディングには基本的に3つの段階があります。トラック録音、オーバーダビング、そしてミックスダウンです。本取扱説明書では基本のレコーディング・セッション例を説明します（→9ページ）。またそのあとで、本機を使ってさらに高度なレコーディングを行なう方法を説明します（→17ページ）。
トラック録音では、曲のベーシックなパートを録音します。

note 通常、トラック録音ではリズムパートを録音します（例えば、ドラムス、パーカッション、ベース、およびリズムギター）。

オーバーダビングでは、トラック録音で録音した音を聴きながら、新たなパートを録音します。
ミックスダウンでは、各トラックに録音した音のレベルを調整し、ステレオ定位（パン）を設定し、それらをミックスしてステレオ・マスターレコーダー（カセット、CD、MDなど）に録音します。

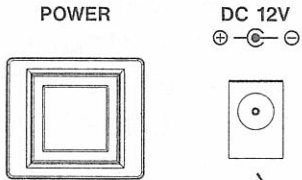
note ステレオ・カセットデッキではA面とB面のトラックが逆の方向に録音されますが、本機では4つのトラックが全て同じ方向に録音されます。

CR-4の各部の働き

簡単にCR-4の各部の働きを記しておきます。
クイックガイドとしてご利用ください。

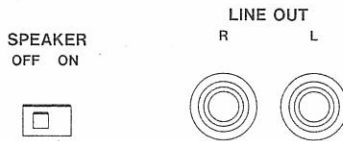
DC 12V、POWER

付属のACアダプターを接続し、
電源のオン/オフを行ないます。



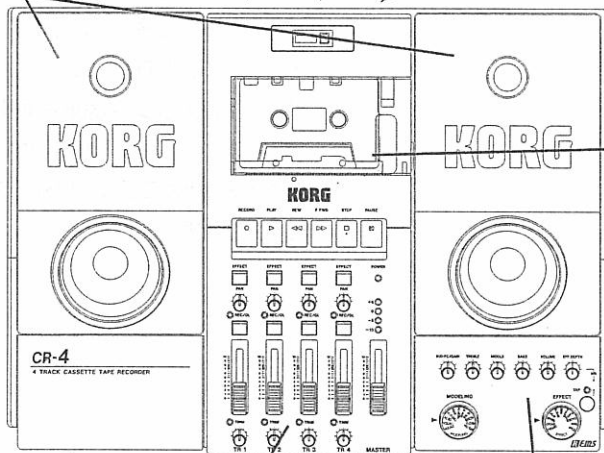
LINE OUT L/R

ステレオ・マスター用レコーダー
(カセット、CD、MDなど)を
接続します。

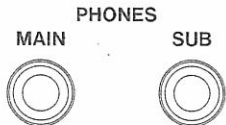


スピーカー

リアパネルのスイッチを使って
スピーカーとPHONES出力の
オン/オフの切換えを行なう
ことができます。



4トラック・カセットデッ
キとトランスポート操作
ボタン
通常のカセットデッキの
トランスポート操作と同
じです。



PHONES MAIN/SUB

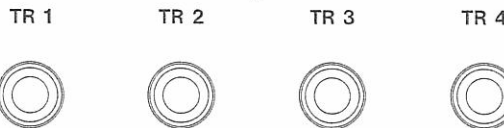
ステレオ・ヘッドホン
を接続します。ヘッド
ホンを接続すると、ス
ピーカーからの出力は
オフされます。

ミキサーセクション

各トラックの入カレベル、録音
ファンクション、出カレベルの
設定、および各トラックのエフ
ェクト、パンの設定を行ないます。

Ampworksエフェクトセクション

入カソースにアンプ/マイク・シ
ミュレータを通したり、エフ
ェクトをかけることができます。



TR1, TR2, TR3, TR4

ギター、ベース、マイク、シンセサイザー
などを接続するための標準フォーン端子です。

CR-4を使用するときは、平らで固い表面を持つ台（机など）の上に設置し、接続のためのスペースを確保してください。

電源の接続以外に、オーディオの入出力接続を行ないません。

あらかじめ、(→8ページ)の「CR-4の各部の働き」をご覧くださいになることをお勧めします。

入力信号を接続する

CR-4には、マイク、ギター、ベース、シンセサイザー、リズムマシンなどの信号を入力することができます。

TR 1 TR 2 TR 3 TR 4



すべての入力ソースはフロントパネルの標準フォーン端子に接続します。

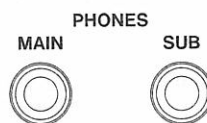
⚠ 外部機器との接続を行なうときや接続を外すとき、あるいは外部機器の電源のオン/オフを行なうときは、必ずCR-4の[MASTER]フェーダーを絞って音量を下げてください。[MASTER]フェーダーを上げたまま行なうと、大きなノイズによって耳あるいはヘッドホンやスピーカーに損傷を与える場合があります。

出力信号を接続する

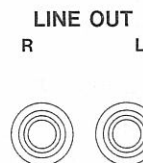
CR-4からヘッドホンやマスターレコーダーに音声信号を出力することができます。

ヘッドホンは、フロントパネルの[PHONES]端子（標準フォーン端子）に接続します。[MAIN]と[SUB]の2つのヘッドホン端子がありますが、1つだけ接続する場合は[MAIN]端子をお使いください（[SUB]端子だけに接続した場合、音声信号が出力されません）。

note ヘッドホンを[MAIN]端子に接続すると、スピーカーからの出力はオフされます。



ステレオのカセットデッキ、MDなどのマスターレコーダーは、リアパネルの[LIN OUT]端子（RCAピン端子）に接続します。



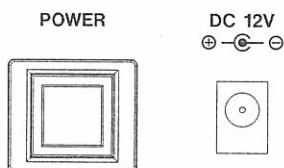
CR-4の準備

電源を接続する

CR-4の[DC 12V]端子に付属のACアダプターを接続します。そしてACアダプターの電源プラグをコンセントに接続します。

▲ 本機には必ず付属のACアダプターをご使用ください。また、ACアダプターは必ず100ボルトの電源コンセントに接続してください。

CR-4に接続しているリズムマシンやシンセサイザーなどの電源を入れ、それからCR-4の[POWER]スイッチを押して電源を入れます。



[LINE OUT]端子にレコーダーを接続している場合、この段階でレコーダーの電源を入れます。

note オーディオ機器の電源は、常にソース側（入力する楽器など）から順番に入れてください。また電源を切る場合、逆の順番に行なってください。

テープを装着する

note CR-4を使用する前と後に、市販のテープ・クリーニングキットを使ってヘッドの清掃を行なうことをお勧めします（乾式のカセット型ヘッドクリーナーの使用はお勧めできません。綿棒、テープ・ヘッドクリーナー液、ラバークリーナー液がセットになったクリーニングキットの使用をお勧めします）。ヘッドがきれいに保たれていないと、正しい録音／再生特性が得られない場合があります。

また、カセットレコーダーのヘッドは、長時間使用しているうちに、また帯磁したものが接触したときなどに磁化されます。できるだけ定期的にヘッドイレーナーを使って消磁することをお勧めします。

消磁の方法についてはヘッドイレーナーの取扱説明書をご覧ください。

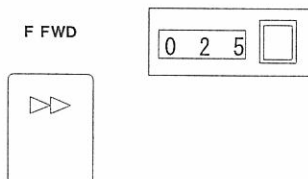
なお、CR-4には必ずTYPE II（ハイポジション）のテープをご使用ください。

カセット内部でテープがたるんでいる場合、鉛筆などを使ってたるみをなくしてから装着してください。

- ① カセットカバーを開けます（イジェクトボタンはありません。指を使って開けてください）。
- ② テープのカセットに曲名（プロジェクト名）、日時などを書いておきます。また通常のステレオ・カセットと区別するために、「CR-4」と書いておくことをお勧めします。
- ③ テープを装着します。テープが冒頭位置（左側にテープが巻き取られている状態）にない場合、[REW]ボタンを押してテープを巻き戻します。

▲ マルチトラック・レコーディング用には、後で混乱しないように、必ずカセットテープのA面を使うようにすることをお勧めします。

- ④ カセットカバーを閉じます。
- ⑤ [PLAY]ボタンを押して再生を開始し、約10秒後に[STOP]ボタンを押します。そしてテープカウンターのリセットボタンを押します。



▲ 上記操作により、リーダーテープ部分およびテープ巻き始めの不安定な部分を選んで録音を行なうことができます。

これで録音の準備が整いました。
次ページからの説明に従って録音を行なってください。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

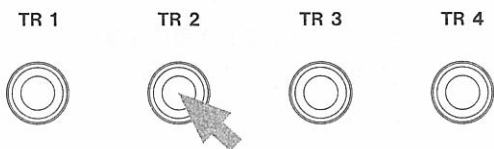
マルチトラック・レコーディングの手順を、具体的な例を挙げて説明しましょう。ここでは、最初に2つのトラックにベースとドラムスを録音します。ドラムスにはリズムマシンを使います。ベースをトラック1、ドラムスをトラック2に録音します。その後、ギターをトラック3、そしてボーカルをトラック4に録音します。

楽器構成や録音手順がこの例と異なっても、マルチトラック・レコーディングの基本操作は同じですので、よくお読みください。

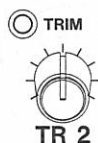
note この例では、最初にリズムマシンをエフェクトなしで録音します。そのあと、録音したリズムマシンの音を聴きながらベースパートを録音します。ベースの録音にはAmpworksエフェクトを使います。

リズムマシンを録音する

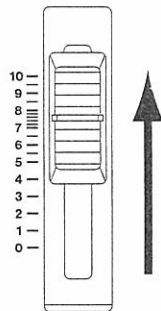
- ① リズムマシンのモノラル出力を本機の[TR 2]入力端子に接続します。



- ② リズムマシンの設定を行なった後、リズムマシンをスタートします。CR-4のトラック2の[TRIM]ツマミを調節します。リズムマシンの大きな音の部分で[TRIM]インジケータ（LED）が一瞬赤く点灯する程度が適正レベルです。



- ③ トラック2のフェーダーを[7]～[8]表示位置（ユニティ・ゲイン）まで上げます。

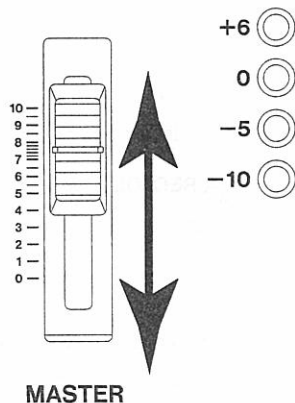


トラック1、3、4の[TRIM]ツマミとフェーダーを最小位置に設定します（録音時のノイズを低減します）。

- ④ トラック2の[REC/OL]ボタンを押して、録音モードにします（インジケータ（LED）が緑色に点滅）。もう一度リズムマシンをスタートします。インジケータが赤くなった場合、入力レベルが高すぎますので、ときどき赤くつく程度までフェーダーを下げてください。



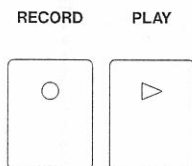
- ⑤ リズムマシン演奏中に、[MASTER]フェーダーを使ってモニターレベルを調節します（[MASTER]フェーダーの位置は、録音レベルに影響しません）。



- ⑥ フェーダーを上げ下げすると、ヘッドホンやスピーカーの音声出力ボリュームが変わります。フェーダーを上げる場合は特にご注意ください。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

- ⑥ リズムマシンをストップし、曲の冒頭に戻します。
- ⑦ [RECORD]ボタンを押します。テープが走行し、トラック2の録音が始まります。リズムマシンをスタートします。



録音中は[REC/OL]ボタンが点滅から点灯へ変わります。

note 録音中にモニターされる音は、録再ヘッドの構造上、大きく聞こえる場合がありますが故障ではありません。実際には、[RECORD]ボタンを押す前に確認したレベルや音質でテープへ録音されます。

note テープを走行させずにレコーダー部を録音待機状態にするには、[PAUSE]ボタンを押してから[RECORD]ボタンを押します。この状態で再度[PAUSE]ボタンを押すと、録音待機が解除されて録音が始まります。

- ⑧ リズムトラックの最後まで録音を終えたら、リズムマシンをストップし、[STOP]ボタンを押します。テープをカウンターゼロの位置（＝録音開始位置）まで巻戻します。トラック2の[TRIM]ツマミを最小位置にして、リズムマシンの接続を外します。

- ⑨ **重要!** トラック2の[REC/OL]ボタンを押してインジケータ（LED）を消灯（録音モードを解除）します。

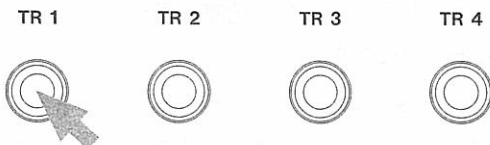


note [RECORD]ボタンを使って録音を始めると、[REC/OL]インジケータ（LED）が点滅していたトラック（録音モードトラック）のみに録音が行なわれます（入力信号のあるなしにかかわらず）。

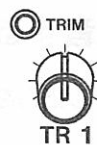
録音を終えたトラックは、必ず[REC/OL]ボタンを押してインジケータ（LED）を消灯させてください。

ベースを録音する

- ① ベースを[TR 1]入力端子に接続します。



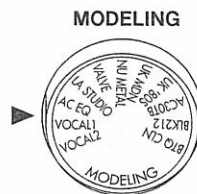
- ② ベースを演奏しながら、CR-4のトラック1の[TRIM]ツマミを調節します。大きな音を弾いたときに[TRIM]インジケータ（LED）が一瞬赤く点灯する程度が適正レベルです。



- ③ ベースの録音にはエフェクトを使います。トラック1の[EFFECT]スイッチを押して、エフェクトをオンにします。



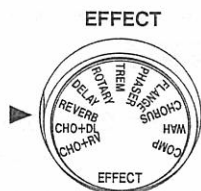
Ampworksセクションの[MODELING]ダイヤルを使って、希望のモデリング・タイプを選択します。



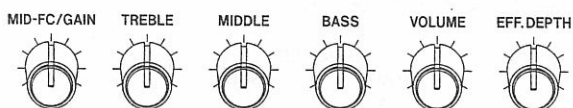
さまざまなサウンドを持つアンプ・シミュレータの中から選択できます。それぞれのサウンドを試してみて、一番気に入ったタイプを選んでください。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

- ④ コーラスなどのエフェクトをかけることもできます。Ampworksコントロール部の[EFFECT]ダイヤルを使って、希望のエフェクト・タイプを選択します。



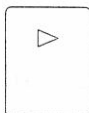
Ampworksセクションの上部に並ぶツマミを使って、アンプのゲインやトーン、およびエフェクトのボリュームを調節します。



note Ampworksエフェクトの使い方については、「Ampworksエフェクト」(→18ページ~)をご覧ください。

- ⑤ トラック1の[REC/OL]ボタンを押して、インジケータ(LED)を緑色に点滅させます。リズムマシンを録音したときと同じように、フェーダーを調節します(大きな音のときに[REC/OL]インジケータ(LED)がときどき赤くつく程度が適正レベルです)。
- ⑥ [PLAY]ボタンを押してリズムパートを再生し、これに合わせてベースを演奏してみます。

PLAY



トラック2(=ドラムス)のフェーダーを使って、ドラムスのレベル・バランスを調節します。

- ⑦ リズムマシンのときと同じように、ベースを録音します。

録音を終わったら、必ずトラック1の[REC/OL]ボタンを押してインジケータ(LED)を消灯(録音モードを解除)します。

トラック1の[TRIM]ツマミを最小位置にして、ベースの接続を外します。

また、トラック1の[EFFECT]スイッチをオフにしておきます。[EFFECT]スイッチを戻すには、別のいずれかのトラックの[EFFECT]スイッチを「軽く」押します。

note 別のいずれかのトラックの[EFFECT]スイッチを押し下げると、そのトラックの[EFFECT]スイッチがオンになり、トラック1の[EFFECT]スイッチがオフになります。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

ギターを録音する

次に、ベースを録音するのと同じ要領でギターを録音します。

ギターはトラック3に録音します。[TR 2]入力端子からベースのプラグを抜き、[TR 3]入力端子にギターを接続します。

ベースのときと同じように、[TRIM]ツマミを調節します（トラック2の[TRIM]ツマミを下げることを忘れないでください）。

ギター録音のときも、Ampworksエフェクトを使うとよいでしょう。Ampworksセクションをギター用の設定にします。（→19ページ）

トラック3の[EFFECT]スイッチをオンにします（別のトラックの[EFFECT]スイッチがオンになっている場合、トラック3の[EFFECT]スイッチをオンにすることにより、別のトラックの[EFFECT]スイッチが自動的にオフになります）。

トラック3のフェーダーを使ってギターの録音レベルを調節したら、これに合わせて、すでに録音したベースとドラムスの再生レベルを調節します。ここでのレベル・バランスは録音するときのモニターのバランスです。最終のミックスダウン時には改めてバランスを取り直すことができます。

note [PAN]ツマミは各信号のステレオ定位を設定するものです。モノラルでモニターするには[PAN]をすべてセンター位置に設定します。

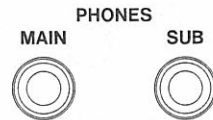
他のトラックを聞きながら録音する場合、[RECORD]ボタンを押すと、入力している音に対するヘッドホン等のモニター出力の定位が変わる場合があります。これは、録再ヘッドにおけるクロストーク（音漏れ）のためであり、故障ではありません。このことを緩和するためにも、録音する際のモニターの[PAN]は、センター位置に設定することをお勧めします。



ギタートラックの録音を終えたら、トラック3の[TRIM]を下げ、[EFFECT]スイッチをオフにし、[REC/OL]ボタンを押してインジケーター（LED）を消灯（録音モードを解除）します。

ボーカルを録音する

トラック4に、マイクを使ってボーカルを録音します。スピーカーでモニターすると、スピーカーの音がマイクを通して入力されてしまい、ハウリングの恐れがあります。同時に、スピーカーの音が一緒に録音されてしまいます。ヘッドホンを、フロントパネルの[MAIN]端子に接続し、ヘッドホンでモニターしてください（スピーカーの音はオフされます）。



マイクは出力レベルが小さいため、[TRIM]ツマミをかなり上げる必要があります。

トラック4の[EFFECT]スイッチをオンにし、[MODELING TYPE]ダイヤルを使って"VOCAL 1"または"VOCAL 2"を選択することにより、マイク・シミュレーターを使うことができます。マイク・シミュレーター使用時もリバースなどのデジタル・エフェクトやEQを使うことができます。

Ampworksエフェクトについての詳細は（→20ページ）をご覧ください。

⚠ 録音と再生チェックを繰り返す場合、[REC/OL]ボタンのオン/オフ操作を間違えないように十分にご注意ください。

note ボーカルパート全部を一度に録音する必要はありません。ボーカルの入らないスペースがあれば、その前後で分割して録音することができます。

ボーカルの録音を終えたら、トラック4の[EFFECT]スイッチをオフにして、[REC/OL]ボタンを押してインジケーター（LED）を消灯（録音モードを解除）します。次はミックスダウンです。

note レコーディングを終えたテープは、誤消去防止のためのツメを折っておくことをお勧めします。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

ミックスダウン

ミックスダウン時には、モニターとしてスピーカーを使うことができます。スピーカーを使う場合、ヘッドホンに[PHONES]端子から外します。

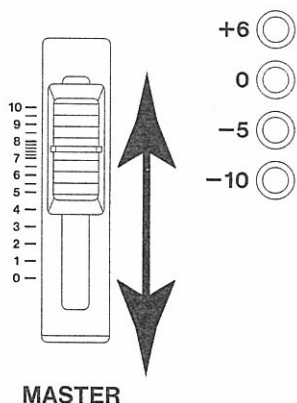
ミキシングレベル

ミックスダウンを行なうとき、最大レベルのときのみマスターメーターの[+6]インジケーターが点灯する程度のレベルに設定します（[+6]インジケーターが点灯し続ける状態では、CR-4の出力から歪んだ信号が出力されます）。

CR-4の出力レベルを設定したら、マスターレコーダー側の入力レベル設定を適切に行ないます。デジタルレコーダー（MDレコーダー、CDレコーダーなど）をマスターレコーダーにする場合、特にオーバーレベルに気を付けてください。デジタル録音の場合、アナログ以上に不快な歪みが発生します。

逆にレベルが低すぎると、テープのヒスノイズやバックグラウンド・ノイズが目立つようになります。

いったん[MASTER]フェーダーを"4"付近に設定して、4つのトラックのバランスを合わせ、その後でマスターレベルを設定するとよいでしょう。



ミキシングに絶対的なルールはありません。特定のトラックだけが目立つようにせず、それぞれのトラックをバランス良くミックスすればよいのです。

ミックスポジション

[PAN]ツマミを使って、ミックス内の各トラックの定位を設定します。

一般的には、リードボーカルをセンターに置きます（左右のチャンネルから同じ音量で出力される状態）。2つのトラックを使ってステレオ・ソース（ステレオのリズムマシンやシンセサイザーなど）を録音した場合、元の定位を保つためにそれぞれのトラックの[PAN]ツマミを左一杯と右一杯に設定します。

通常、「まるで生の演奏を聴いているような定位」に設定しますが、特殊効果を狙った定位に設定することもできます。たとえば、注目を浴びるために不自然な定位にしたり、途中で定位が動くようにすることもできます。ただし、モノラルの装置（AMラジオなど）で聴いた場合はこうした特殊効果は威力を発揮できません。

ミックスダウン録音を行なう

レベルを調節したら、以下の手順でミックスダウン録音を行ないます。

- ① CR-4のテープを録音開始点より少し手前まで巻戻します。
- ② ステレオ・カセットテープに録音する場合、録音を開始したい位置より少し手前まで巻戻します（ディスクに録音する場合はこの操作は必要ありません）。ステレオ・カセットレコーダーを録音待機状態にします。
- ③ CR-4のテープを再生して、ステレオ・レコーダーのメーターで入力レベルをチェックします。ステレオ・レコーダーの入力レベル調整ツマミを使って、入力レベルが適正になるように調節します。レコーダー側で入力レベル調整ができない場合、CR-4の[MASTER]フェーダーを使って調節します。
- ④ CR-4のテープを録音開始点より少し手前まで巻戻します。

マルチトラック・レコーディングの基本操作

- ⑤ CR-4のテープを再生します。
- ⑥ 実際に曲が始まる手前で、ステレオ・レコーダーの録音を開始します。
- ⑦ 曲が終了したら、レコーダーを停止し、CR-4を停止します。

note 先にCR-4を停止すると、止めた際の音がレコーダーに録音されてしまいますので、必ずレコーダーを先に停止し、その後CR-4を停止してください。

- ⑧ ミックスダウン録音をしたテープを聴いてみます。納得が行かない場合はやり直してください。

note すべてのレコーディング作業を終了したら、CR-4のテープヘッドを清掃することをお勧めします。

ここではCR-4を使ったレコーディングにおける高度なテクニックを紹介します。

マルチトラック同時レコーディング

上記の録音例のように、CR-4では1トラックずつ録音することができますが、この他に、4トラック同時録音、および1-2、3-4のペアトラックの同時録音が可能です。

したがって、仲間と一緒に演奏するのを録音したり、ギターと歌を同時に録音することなどが可能です。録音トラックの選択には[REC/OL]ボタンを使いますが、以下のルールに従って設定されます。

- すべてのトラックの録音モードがオフのときに、いずれか1つのトラックを録音モードにするには、そのトラックの[REC/OL]ボタンを押します。
- すべてのトラックの録音モードがオフのときに、いずれかのペアトラック（1-2または3-4）を録音モードにするには、それらのトラックの[REC/OL]ボタンを一つずつ、または同時に押します。
- 全トラック（1～4）を録音モードにするには、4つの[REC/OL]ボタンを同時に押します。
- ペアトラックの片方が録音モードのときに、もう一方のトラックを録音モードにするには、録音モードトラックの[REC/OL]ボタンを押して（録音モードを解除して）から、もう一方の[REC/OL]ボタンを押します（あるいは逆の手順でもかまいません）。例えば、トラック1が録音モードのときにトラック2を録音モードにするには、トラック1の[REC/OL]ボタンを押して（録音モードを解除して）からトラック2の[REC/OL]ボタンを押します（あるいは逆の手順）。
- あるトラックが録音モードのときに、ペアトラック以外のトラックを録音モードにするには、単に録音したいトラックの[REC/OL]ボタンを押します（最初に録音モードになっていたトラックの録音モードは自動的に解除されます）。例えば、トラック1が録音モードのときにトラック3を録音モードにするには、単にトラック3の[REC/OL]ボタンを押します。

▲ 2つ以上の[EFFECT]スイッチを同時に押すことにより、複数の[EFFECT]スイッチがオンになりますが、このような使い方は絶対にしないでください。

複数の入力ソースがある場合は、いずれか1つの入力に対してのみ、Ampworksエフェクトををかけてください。

入力を増やす

小型の外部ミキサーをCR-4の入力端子（TR 1～TR 4）に接続することにより、いくつかの楽器をミックスした外部ミキサーの出力信号をCR-4にモノラルあるいはステレオで録音することができます。例えばステレオ出力のギターとステレオ・キーボードとベースを外部ミキサーでステレオにミックスして、CR-4のトラック1/2にステレオで録音し、その後トラック3および4にリードギターとボーカルを直接録音する、といったことができます。

一般的に、外部ミキサーを使ってステレオ・サブミックスを作り、出力信号をCR-4の2つのトラックに録音します。ミックスダウンのとき、これらのトラックのパン設定はそれぞれ左一杯と右一杯にします。

トラック数を増やす

CR-4ではカセットテープ上に4トラックまでしか録音できません。しかし、録音した4つのトラックをステレオ・レコーダーにステレオ・ミックスダウン録音し、録音したミックスを再びCR-4に戻すことにより、事実上のトラック数を増やすことができます。

note ステレオ・レコーダーとしてデジタル・レコーダー（MDレコーダーやCDレコーダー）を使うと、テープ・ヒスノイズを抑えることができます。

- ① 上記の「マルチトラック・レコーディングの基本操作」の説明に従って、4つのトラックに録音を行いません。（→ 11ページ）

高度なテクニック

- ② ステレオ・レコーダーにミックスダウン録音を行ないます。
この後、手順3以下の操作で、ミックスダウン録音したサウンドをCR-4に戻します。
- ③ ステレオ・レコーダーのライン出力をCR-4の[TR 1]／[TR 2]入力端子に接続します。通常はここでエフェクトを使いませんので、[EFFECT]スイッチをオフにしておきます。
- ④ CR-4にテープをセットします。ここでは新しい(未録音の)テープをセットすることにします。
[REC/OL]ボタンを使って、CR-4のトラック1～2を録音モードにします。トラック3と4の[TRIM]ツマミを最小位置にします。
- ⑤ 手順2で録音したミックスダウンをステレオ・レコーダーで再生し、CR-4のトラック1／2の録音レベルを[TRIM]ツマミとフェーダーを使って調節します。
- ⑥ 調整後、CR-4の録音を開始し、ミックスダウンを冒頭から再生します。
録音を終えたら、CR-4の[TR 1]／[TR 2]入力端子のレコーダー接続を外し、[REC/OL]ボタンを押して録音モードを解除します。
- ⑦ トラック1／2に合わせて、トラック3と4に新規の録音を行ないます。
トラック1／2には元の1～4トラックの録音をミックスダウンした音が録音されていますので、トータルで6つのトラックを録音できることとなります。

note ステレオ・カセットレコーダーにミックスダウンを行なった場合は、上記手順3～6を行なう代わりに、ミックスダウンしたテープをCR-4にセットしてください。CR-4のトラック1と2を使って、ミックスダウンテープを再生することができます。
なおCR-4はドルビーなどのノイズリダクションを使って録音したテープを正しく再生できませんので、この方法を使う場合は使用するステレオ・カセットレコーダーのノイズリダクションをオフにしてミックスダウン録音を行なってください。

note ステレオ・レコーダーにミックスダウンした最初の4つのトラックは、後から分離することができません。したがって、ミックスダウンをCR-4のテープに戻した後から、「ベースの音が小さかった」、「間違えた音を弾いた」などに気が付いても、修正の方法がありません。最初の録音トラックを念のためにキープしておくことをお勧めします。

ノイズリダクションを使う

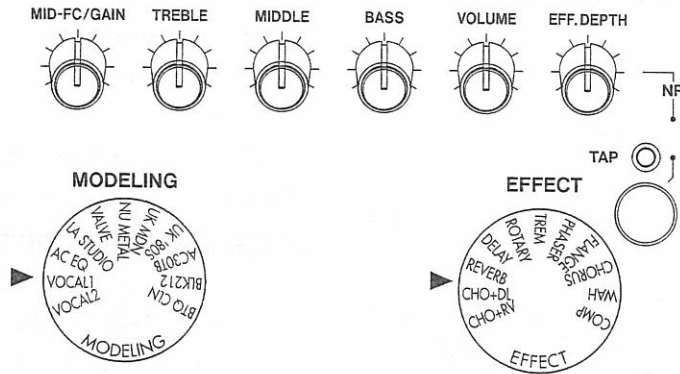
Ampworksエフェクトの中に、ノイズリダクションが用意されています。この機能を使うと、ノイズの多いギターや雑音の多い中でのマイク録音では、設定したスレッシュホールドレベル以下のサウンドがカットされます。
スレッシュホールドレベルの設定は[TAP]ボタンを押しながら[EFF.DEPH]ツマミを回します。

Ampworksエフェクト

Ampworksエフェクトには、ギターアンプ、ベースアンプやマイクをモデリングしたサウンドが得られるアンプ・シミュレータやマイク・シミュレータに加え、デジタル・エフェクトが搭載されています。
[MODELING TYPE]ダイヤルを使ってモデリング・タイプを選択し、[EFFECT]ダイヤルを使ってデジタル・エフェクトを選択します。

REMSとは？

(Resonant structure and Electronic circuit Modeling System)は、生楽器や電気/電子楽器の発音メカニズム、発音された音がボディ/キャビネットで共鳴するメカニズム、その音が出ているフィールドの空気感、音の伝達経路としてマイク、スピーカーなどの電気/音響的特性、真空管、トランジスタなどの電気回路による音の変化など、音色に関わる様々な要因を緻密にデジタルで再現したコルグ独自のモデリングテクノロジーです。



コントロール・ツマミの働き

Ampworksセクション上部に並ぶ7つのツマミを使って、以下の調整を行なうことができます。

[MID-FC/GAIN]

[MODELING TYPE]ダイヤルでVOCAL 1、VOCAL2、VALVE、LA STUDIOまたはAC EQを選択した場合、中音EQ（[MIDDLE]）の中心周波数を設定します。

その他を選択した場合は、アンプゲインを調整します。ゲインを上げるほど、サウンドにディストーションがかかります。

[TREBLE]

アンプ・モデリング部の高音を調整します。

[MIDDLE]

アンプ・モデリング部の中音を調整します。

[BASS]

アンプ・モデリング部の低音を調整します。

[VOLUME]

アンプ・モデリング部の音量を調整します。

[EFF.DEPTH]

デジタル・エフェクト部の効果の深さを調整します。

[TAP]

デジタル・エフェクトのモジュレーション・スピード、ディレイ・タイム、リバース・タイムの調整（→ 20ページ）に使います。

これらの他に、[TAP]ボタンを押しながら[EFF.DEPTH]ツマミを操作することにより、ノイズリダクション機能の設定ができます。（→ 18ページ）

MODELING

[MODELING]セクターを使って、モデリングのタイプを選択します。

BTQ CLN

100W高級ハンドメイド・アンプのクリーン・チャンネル

BLK212

カントリーやブルースプレーヤー必須の2 x 12コンポアンプ

AC30TB

VOX AC30TBのプリリアント・チャンネル

UK '80S

1983年UK製100Wマスターボリューム付きヘッド

UK MDN

UK製100Wモダン・アンプ

NU METAL

メタルプレートのハイゲイン・アンプ

VALVE

ULTRA LOスイッチをオンにした真空管ベース・アンプ

LA STUDIO

典型的なLAサウンドのベース・アンプ

AC EQ

ライン入力やアコースティック・ギター入力に対して、モデリング回路による色付けを行わずにEQとエフェクトのみを使用するときを選択

VOCAL 1

有名なオーストリアのコンデンサーマイク

VOCAL 2

一般的なダイナミックマイク

高度なテクニック

エフェクト

モデリング機能に加えて、以下の11種類のデジタル・エフェクトを使うことができます。

COMP

レベルとサステーンを一定に保つコンプレッサー機能

WAH

ピッキングに反応してワウがかかるオート・ワウ。
[EFF.DEPTH]ツマミが左側にあるときはダウンスweep、右側にあるときはアップスweepになります。

CHORUS

ピンテージ・コーラス

FLANGE

ピンテージ・フランジャー

PHASER

ピンテージ・フェーザー

TREM

ピンテージ・トレモロ

ROTARY

ロータリー・スピーカー・シミュレーター

DELEY

ディレイ

REVERB

スプリング・リバーブの効果

CHO+DL

ピンテージ・コーラスとディレイの組み合わせ

CHO+RV

ピンテージ・コーラスとスプリング・リバーブの組み合わせ

TAPボタン

[TAP]ボタンを使って、デジタル・エフェクトのモジュレーション・スピード、ディレイ・タイム、リバーブ・タイムの調整ができます。



[TAP]ボタンを2回押します。この間隔でそれぞれのタイミングを決定します。

[TAP]ボタンの点滅スピードが現在のエフェクト・スピードです。

[TAP]ボタンによるタイミング設定は、下記の各エフェクトに対して使うことができます。

CHORUS, PHASER, ROTARY

これらのエフェクトのモジュレーション・スピードを80ミリ秒～4秒の間で設定できます。タップの間隔がそのままモジュレーション・スピードとして設定されます。

FLANGER

モジュレーション・スピードを160ミリ秒～8秒の間で設定できます。モジュレーション・スピードがタップ間隔の2倍のスピードに設定されます。

TREM

モジュレーション・スピードを65ミリ秒～2秒の間で設定できます。モジュレーション・スピードがタップ間隔の半分のスピードに設定されます。

DELAY, CHO+DL

ディレイタイムを80ミリ秒～1秒の間で設定できます。タップの間隔がそのままモジュレーション・スピードとして設定されます。

REVERB, CHO+RV

リバーブタイムを0.5秒～8秒の間で設定できます。タップの間隔の2倍がリバーブタイムとして設定されます。

COMPおよびWAHに対しては[TAP]ボタンを使うことができません。

お手持ちの外部のアンプ・シミュレータをAmpworksのアンプ・モデリング部の代わりに使用し、Ampworksのエフェクト部のみを使用する場合、[MODELING TYPE]ダイヤルで"AC EQ"を選択します。これによりAmpworksのアンプ・モデリング部はオフとなり、3バンドEQ、ノイズリダクション、およびエフェクト部のみが使用可能となります。

CR-4をギターコンボとして使う


CR-4を、アンプ・シミュレータとエフェクトを内蔵したポータブルギターコンボとして使うことができます。

- ① ギターをトラック1に接続します。[REC/OL]ボタンを押して、[TRIM]とフェーダーレベルを調節します。(→12ページ)
- ② トラック1の[EFFECT]スイッチをオンにし、[MODELING TYPE]ダイヤルと[EFFECT]ダイヤルを使ってそれぞれシミュレータ・タイプとエフェクトの種類を選択します。(→19ページ)
- ③ 演奏を行ないます。[MASTER]フェーダーを使って、全体のボリュームを調節します。

note 上記の使い方を応用して、CR-4を弾き語りのソロ・パフォーマンスに使うこともできます。CR-4を使って2トラックにバック演奏を録音したカセットを用意します。そして、このカセットを再生しながら、残る2つのトラックにギターとマイクを接続して、演奏を行ないます。

CR-4をプリアンプとして使う

CR-4のスピーカー出力では音量が足りない場合、[LINE OUT]ジャックから外部のオーディオシステムの入力に接続します。つまり、アンプ・シミュレータとエフェクトを内蔵したプリアンプとしてCR-4を使います。

 CR-4の[LINE OUT]ジャックからはラインレベルの信号が出力されます。必ずラインレベル入力を持つシステムに接続してください。

信号を入力するトラックの[REC/OL]ボタンをオンにします（[REC/OL]ボタンをオンにしたトラックの入力信号が[LINE OUT]ジャックから出力されます）。それぞれのトラックの[TRIM]を設定し、[PAN]とフェーダーを設定します。

[MASTER]フェーダー上部の出力インジケータを見ながら、[MASTER]フェーダーを調節します。最後に外部のシステム側で全体のレベルを調節します。

仕様

カセットレコーダー部

- トラック形式： 4トラック4チャンネル
- ヘッド構成： 4チャンネル録音/再生ヘッド
(パーマロイ)×1
4チャンネル消去ヘッド(フェライト)×1
- モーター構成： DCモーター×1(キャプスタン/リール)
- テープ速度： 4.76cm/sec.
- ワウフラッター： 0.25%
- 早巻き時間： 約120秒(C-60テープ)
- 使用テープ： カセットテープ(C-60以下を推奨)
CrO2専用(Type II, 70 μ s+
3180 μ s)

一般

- 電源： 付属のACアダプター(KA231)
使用(100V、50-60Hz)
- 消費電力： 13W
- 外形寸法(mm)：434(幅)×103(高さ)×322
(奥行き)[突起部を含む幅]
- 質量： 4.9kg(本体)

オーディオ特性

《電気部》*0dBV=1V

- MIC/LINE 入力
(ϕ 6.3mm フォーン・ジャック×4、不平衡)
入力レベル： -50dBV以上
入力インピーダンス： 1M Ω
- スピーカー： バスレフ、8cm×2
最大出力レベル： 2.5W+2.5W
- LINEOUT出力(RCAピンジャック×2)
規定出力レベル： -10dBV
出力負荷インピーダンス： 10k Ω 以上
- PHONE 出力
(ϕ 6.3mm ステレオ・フォーンジャック×2)
最大出力レベル： 10mW+10mW(30 Ω 負荷)
- 総合周波数特性： 50Hz~12.5kHz \pm 3dB
- 総合S/N比： 43dB
- 総合歪み率(THD)： 3.0%以下
- チャンネル・セパレーション： 40dB以上(1kHz)
- 消去率： 65dB(1kHz)

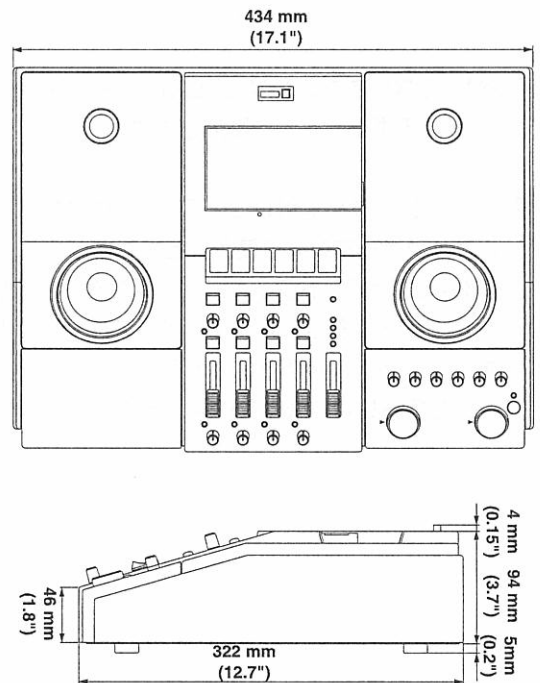
エフェクト

- モデリング・タイプ： 11種類
- エフェクト・タイプ： 11種類+ノイズリダクション
- EQ： BASS、MID、TREBLE

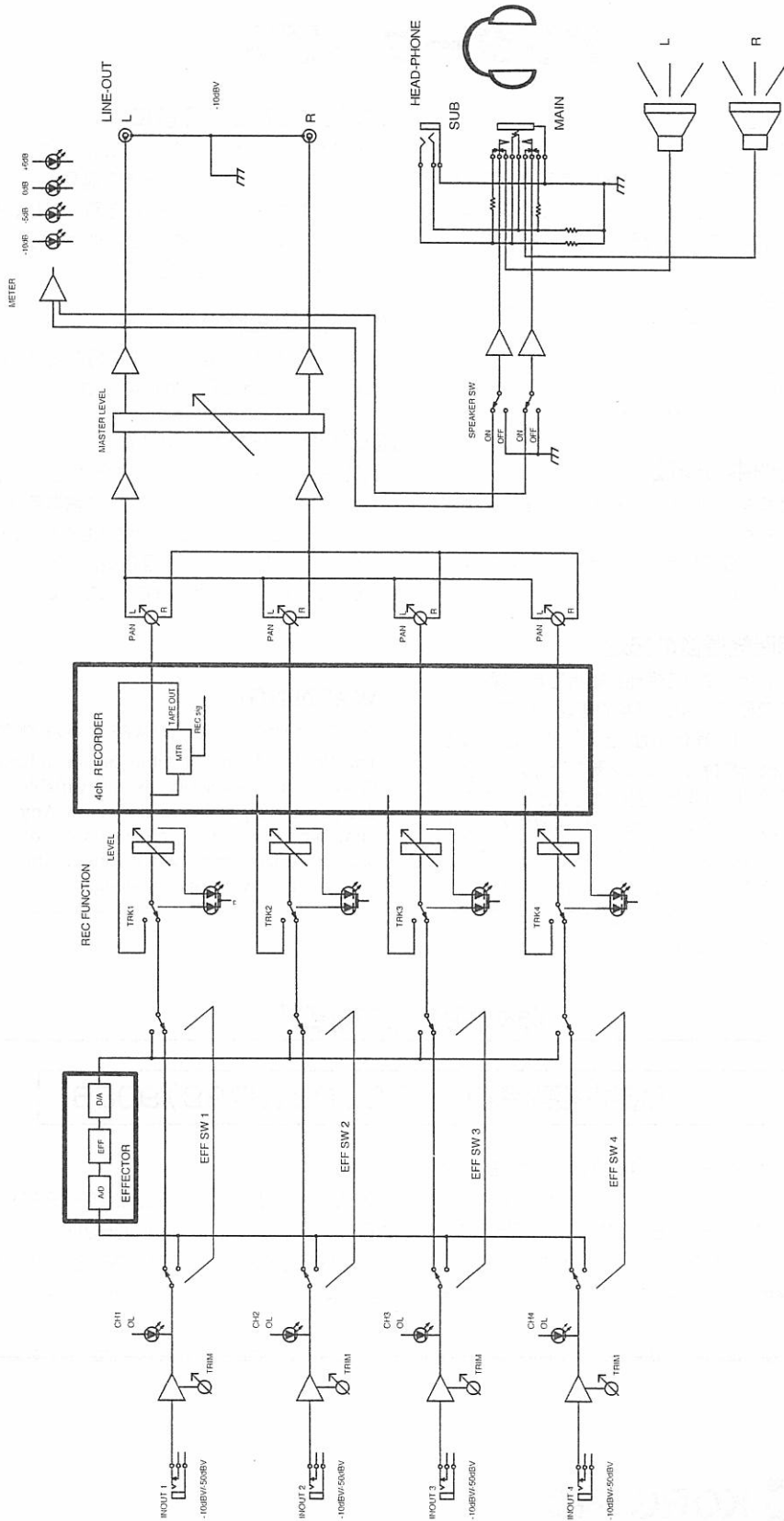
*仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

*ドルビーおよびダブルDマークは、ドルビーラボラトリー・ライセンシング・コーポレーションの登録商標です。

寸法図



ブロック・ダイアグラム



アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路など）のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03 (3799) 9086

- サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1
明正大井 5号営業所 コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085
- 名古屋営業所: 〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51 TEL 052(832)1419
- 大阪営業所: 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館 7F TEL 06(6374)0691
- 福岡営業所: 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F TEL 092(531)0166

ご注意

NOTE

- 輸送中の事故を防ぐため、PLAYキーの下にプロテクターを取り付けてあります。本機を初めてお使いになるときは、必ずこのプロテクターを取り外してからご使用ください。プロテクターは矢印の方向に引くと抜けます。

- In order to avoid possible damage during transit, a protective plate is fitted under the PLAY key when the unit is shipped from the factory. Before using the CR-4 for the first time, you must remove this plate. Grasp the tab protruding from under the PLAY key, and pull out the plate in the direction shown by the arrow.

